



# 工高タイムス

北海道旭川工業  
高等学校新聞局  
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘  
東4条1丁目1-1  
発行人(局長)  
佐々木 晃成  
(電気科3年)

## 情報処理部

### 2次予選を7位で通過

### トラブルを修正し本戦へ

全国高校生プログラミングコンテスト



プログラムを組んだ5人

情報処理部の情報技術科2年生小林瑠生伽君と香林秀明君、木下楓葉君、坂瀬陽斗君、永島佑恭君の5人のチームは第44回全国高校生プログラミングコンテストで第2次予選に進み、9月27日に結果が発表され7位になった。

第2次予選の上位8チームが本選に出場でき、情報処理部は11月9日に日本工業大学で行なわれる本戦に出場が決まった。しかし、本戦は日程が見学旅行と重なり、チームは会場に行けない。本戦には顧問の下村幸広先生が代理で行くためオンライン参加となる。5人は夏休みから週に3日、チームで意見交換をしながら様々な対策をして大会のためのプログラムを作った。大会は「洞窟の宝石を取るゲーム」で全国の選手と戦う。相手より多く宝石を取ったら勝ちだが、マイナスになるアイテムや邪魔をしてくる対戦相手がいるので、その対策をするプログラムを組む。

## リーダー研修

### 「今後の行事に役立てる」

旭工と苫小牧工業高校(苫工)による生徒会リーダー研修会が10月26日に朝日子の館

で行なわれた。最初にピアサポートを広める会の協力を得

## 旭工ライフ

### つららと弟を詠む おーいお茶新俳句で佳作 宇佐美遥翔君(建3)



趣味はプロスタ

第35回伊藤園おーいお茶新俳句大賞で佳作を受賞した。応募数は18万9582句、入賞作品は上位2000句。作品は「氷柱(つらら)折れぐずる弟空模様」だ。国語の課題で授業中に作った。約19万の中から選ばれてうれしい。冬に経験したことを思い出して書いた。

妹につららを取ってあげたときにつららが折れて泣き出したことやそのとき雪が降っていたのをイメージして作った。弟にしたのは女の子よりも男の子の方がつららに興味があり、すぐくずるイメージがあるから。国語の便覧で季語を探していた時に「氷柱」という言葉が目に入った。佳作に選ばれるとは思っていませんが、授業でたくさん書いた作品の中で一番良いのでよかった。授業でまた俳句を作るときは入賞などは考えず、読む人が状況をイメージしやすいように作りたい。

しまう。それでも本来なら1位を取れるようなプログラムを作りたい。予戦では自信のないプログラムだったので、本戦では絶対大丈夫なプログラムを作りたい」と話した。

香林君は「第2次予選ではプログラムを組んで当日まで完成できないところがあったので、7位を取れてびっくりした。当日は行けないが、来年は本戦で1位を取りたいの

で、今回は自分たちのプログラムがどこまで通用するか挑戦したい。予戦ではちょっとしたトラブルで一部のプログラムが動かなくなったので完璧に改善したい」と話した。

## ボクシング部 新人大会に弾み

### 札幌市民大会で7人が優勝

ボクシング部は10月19日に札幌市北区体育館で行なわれた札幌市民大会ボクシング競技ジュニアの部に出場し、1部で3人、2部で4人の計7人が優勝した。



ファイティングポーズをとる安藤部長

部長の安藤楓君(電2)は「階級に合わせて体重調整が必要なので、計画的に体重を落とすしていくことが大事だ。実践練習を通して本番の試合でインファイトを頑張った。自分たちが練習してきたことが試合に生きていた。次の新人大会をイメージしながらつながる勝

ち方ができた」と大会を振り返った。12月に行なわれる新人大会に向けて「体力向上と身体作りをししていく。特に体幹を強化したい。また、ジャブの使い方を再確認して優勝を目指したい」と語った。

- 1部P級 岩澤侍永君(土1)
- 1部F級 安藤楓君(電2)
- 1部W級 荻原魁大君(土2)
- 2部LF級 中村光君(土1)
- 2部B級 大波力哉君(電1)
- 2部LW級 徳井蓮君(電1)
- 2部LW級 山崎蒼空君(土1)



「絵しりとり」をする生徒会役員

てエンカウンターで役員同士の交流をした。「ババ抜き」や「絵しりとり」をした。その後、お互いの学校紹介をし、各校の行事の意見交換を行なった。昼食後に旭工の校舎を案内して終了した。

上口護会長(情2)は「苫工の活動を知ることができて良かった。この経験を生かし、これからの活動に役立てていきたい。校舎を案内したとき自分も知らない所がたくさんあり楽しかった」と語った。

苫工の永井俊彦会長は「両校の違いに触れる貴重な機会でした。エンカウンターで場の空気がほぐれ、とても交流しやすかった。苫工でもアイスブレイクを取り入れたい。学校祭では旭工のように全校で協力して何かを作る企画を苫工に導入したい」と話した。



## 工具箱

月日が過ぎるのは早い。あっという間の高校生活だった。この3年間を振り返ってみると、けっこう楽しかったと感じている。あっとい間だと感じるのは友人たちのおかげだ。小学校から11年間の付き合いだ。新聞局に入ったことで親しい友人もできた。もし新聞局に入っていなかったら、それほど高校生活は楽しくなかっただろう。部活動の帰りや週末に局員とよく遊ぶようになった。カフオケをしたり、公園で缶蹴りやかくれんぼをしたり、留萌に遊びに行ったりもした。新聞局に入ってから忙しい日々が続いた。ほとんどの学校行事を取材した。そのため行事を手放しで楽しめないことが多かった。それでも私は新聞局の友達や先輩と過ごすのが好きだ。今までの新聞で最も思い出に残っているのは生活図画事件の取材だ。当時1年生で、参加した局員の皆で講演の取材を書いたり、小説「銃口」を読んだりした。YouTubeにアップされた講演の動画を何度も見て記事を書いた。旭川でこんなひどい事件があったとは思わなかった。11月3日に知新小学校で「102歳のことば」が上映される。生活図画事件の被害者である菱谷良一さんが主人公となっている映画だ。今回は501号だ。私が入学してから75号目になる。意外と多かった。後輩たちには無理のない程度に頑張ってもらいたい。旭工生の皆さん、これからも新聞局をよろしくお願ひします。(電3椎根)

# 日本工業大学主催と星槎道都大学主催 全国コンペで2人が奨励賞

建築科3年の久保田悠友君と橋本壮真君がそれぞれ全国規模の建築設計のコンペティションで奨励賞を受賞した。久保田君は第38回日本工業大学建築設計競技で、橋本君は第21回星槎道都大学美術学部高校生住宅設計コンクールでの受賞だ。

## 久保田君 湾曲した家を設計 包容力を表現する

久保田悠友君(建3)は第38回日本工業大学建築設計競技に応募し奨励賞を受賞した。



久保田悠友君(建3)

全国から31校が参加し、89作品の応募があった。競技は「肝っ玉母さんのような家、あるいは頑固おやじのような家」という課題で設計を行なった。久保田君は「肝っ玉母さんのような家」を選択した。

「授業の中で設計をするようになっており、テーマにインパクトがあってももしろそう



久保田君が作成した「おかえりが聞こえる家」の建築作品図面

だったので応募した。作品は夏休み前の一か月半で完成させた。タイトルは『おかえりが聞こえる家』。帰ってきた子どもたちを迎えてくれる家という意味を込めた」と語った。工夫した点を「縁側

を設置し、公園から帰って来た子どもたちを迎えることができる点。家を湾曲の形にしたのは、帰ってきた子どもたちを包み込む包容力を表現しているため」と話した。

先生は入賞の要因を「『おかえりが聞こえる家』は、久保田君が独学で学んだCADソフトや三次元ソフトを駆使して、クオリティの高い作品を作り上げたことが大きなポイントだ。また、もっと大きく

説明し表現するところに良かったのが『肝っ玉母さんのやさしさ』を『毛布をかける母の姿』と置き、曲面の屋根で表現すべきだったこと。大学に行ってからさらにスキルに磨きをかけてほしい」と話した。

## 橋本君 テラスに露天風呂 BBQのスペースも

橋本壮真君(建3)は第21回星槎道都大学美術学部高校生住宅設計コンクールに応募し、奨励賞を受賞した。全国から17校が参加し、42作品の応募があった。コンクールの課題は「Fビレッジを眺められる家を設計して欲しい」と

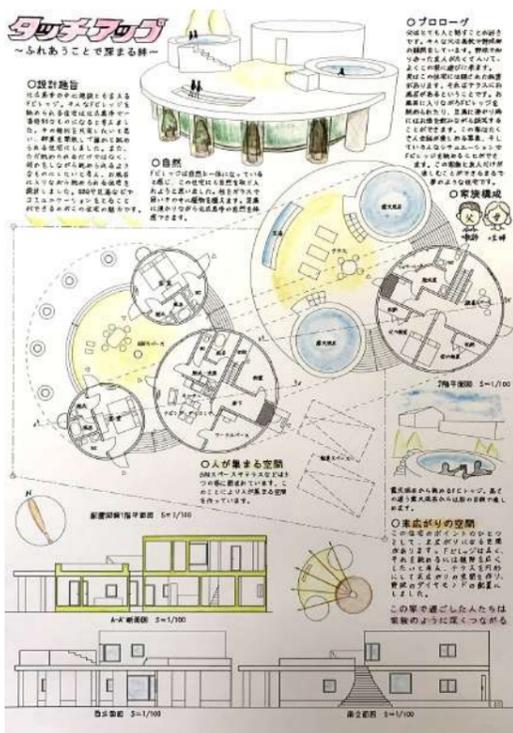
橋本君は「授業の中でコンクールに一つ挑戦することになった。その中で自分が

進学を希望する大学のコンペだったので応募した。作品は一か月半で仕上げ、夏休みも作業をした。タイトルは『タッチアップ〜ふれあうこと〜』。テーマのFビレッジにはエスコンフィールドH OKKAI DOがあるので野

球用語のタッチアップを入れたのがポイント」と話した。



橋本壮真君(建3)



橋本君作成の「タッチアップ」の建築設計図面

指導した建築科の笠木元太先生は入賞の要因を「『タッチアップ』については、提出一か月前の段階でコンセプトがしっかりと決まっていた。柱となる住宅のアピールポイントにおもしろみがあったことが受賞の大きなポイントになった。『Fビレッジを眺められる家』というテーマの目的に沿っておもしろいアイデアを多数絞り出し、建築の技術を用いて表現することができた」と話した。

## バレー部 地区予選で優勝 全道ベスト4を狙う

バレーボール部は9月28〜29日に旭川西高校で行なわれた全日本

旭川地区予選で優勝し、全道大会への出場を決めた。

部長の大澤伶夢君(機2)は



部長の大澤伶夢君(機2)

「普段からの練習と人一倍勝ちたい皆の気持ちがあったので優勝できた。しかし課題も多かった。チャ

ンスポールを落とし、自分たちのミスで楽に勝った試合で苦労してナ札幌46で行なわれる。

全道大会は準々決勝までが11月

11〜13日に北海道立総合体育セン

ター(北海きたえーる)で、準決

勝と決勝が11月22日に北ガスアリー

ナ札幌46で行なわれる。

いる場面があった。全道大会に向けて、チャンスボールを拾うことやプレーの精度を上げて全方向から攻撃につなげていくことを意識し練習している。全道大会では、ベスト4を狙いたい。また、3年生は最後の大会になるので花を持たせられるように、全力を出し切り、一試合ずつ勝ち上がっていき

たい」と語った。

全道大会は準々決勝までが11月

11〜13日に北海道立総合体育セン

ター(北海きたえーる)で、準決

勝と決勝が11月22日に北ガスアリー

ナ札幌46で行なわれる。

## バスケット部 地区で準優勝 全国出場を目指す



部長の鹿原挑夢君(化3)

バスケットボール部は9月14〜16日に旭川永嶺高校と旭川実業高校で行なわれた北海道高等学校バスケットボール選手権大会旭川地区予選会で準優勝し、11月1〜3日に旭川市で行なわれる全道大会に出場する。旭工は一回戦で恵庭南高校と対戦する。

部長の鹿原挑夢君(化3)は

また「目標は全国に出場すること。

部員皆のシュート率をさらに上げていく。ディフェンスでレイアップ

プコースを空けないように心掛ける。コート全体をかき回せるよう

にローテーションを強化したい」と語った。

「優勝できず悔しかった。チーム全体ではディフェンスのときに部員皆が弱気にならないよう声をかけて士気を高めた。個人ではリバウンドとシュートを頑張った。チームの反省点はディフェンスのときに視野が狭く、違うところに気をとられてしまった点」と話した。

また「目標は全国に出場すること。

部員皆のシュート率をさらに上げていく。ディフェンスでレイアップ

プコースを空けないように心掛ける。コート全体をかき回せるよう

にローテーションを強化したい」と語った。